

令和 3 年度 東京都立狛江高等学校学校経営計画

校長 浜田 浩和

1 目指す学校像

校訓である「自主・創造・友愛」の伝統を受け継ぎ、目指す学校像を次に示す。

- (1) 主体的に学ぶ力を育てる。
- (2) 生徒全員の希望進路を実現し、社会的・職業的自立に繋げる。
- (3) 国際理解教育及び文化・スポーツ教育を通して、高い人間力を育成する。
- (4) 規範意識の醸成と挨拶・社会貢献を通して、地域からの信頼と支持を得る。

2 中期的目標と方策

「地球的な視野を持つ、文武両道の逞しい人材の育成」を中期的な目標とし、教育のグランドデザインに示す本校の教育の 3 本柱（知・徳・体）に基づく以下の方策によりその実現を目指す。

目標 1 教員の授業力向上：（1）主体的に学ぶ力を育てるために

- 方策
- ① 主体的に学ぶ力を育てるため、総合的な探究の時間において、生徒が自ら主体的に設定した課題について仮説を立て、検証する、仮説検証型の探究学習の研究を大学等と連携しながら行う。
 - ② これまでの進学指導研究校アソシエイトとして、また、進学指導研究校としての 2 年間の研究結果を各学年及び各教科が共有して、定期考査の出題方法を含めた授業改善を進めていく。
 - ③ 英語教育推進校として、英語の 4 技能 5 領域を伸ばす授業について、さらに研究を進め、英語科教員全体の授業力向上に努める。
 - ④ 自校における相互の授業観察に加え、進学指導重点校・推進校への授業参観、大学受験予備校等が主催する授業セミナーを活用し、若手教員の授業力向上を目指す。

目標 2 生徒の学力向上：（1）主体的に学ぶ力を育てるために

- 方策
- ① 主体的に学ぶ力を育てるために、総合的な探究の時間で、生徒が自ら主体的に設定した課題について仮説を立て、協働的な学びや世界の多様な人々と交流するフィールドワーク等で得た情報を分析・整理して仮説を検証する探究学習を通して、課題の解決策を発表する力を育てる。
 - ② 定期考査等に、知識、技能だけではなく生徒の思考力・判断力・表現力を問う新傾向の問題や英語の 4 技能を問う問題を出題し、生徒に新傾向の問題等に対応できる学力を身に付けさせる。
 - ③ 模擬試験の事前学習、事後学習に Classi の学習動画、Web テスト等を計画的に活用させ、模擬試験への事前・事後の指導を十分に行い、生徒の学力を高める。
 - ④ 生徒の主体的な学びを支援するための夏期講習、冬期講習、自習室等を充実させ、生徒の学力向上を支援する。

目標 3 大学進学対策の充実：（2）生徒全員の希望進路を実現し、社会的・職業的自立に繋げるために

- 方策
- ① 生徒全員の希望進路を実現し、社会的・職業的自立に繋げるために、今年も夏期講習等をより充実させる。冬期講習については、3 学年 0 学期として、さらに運営方法を検討・実施する。
 - ② 教育委員会の支援により進学指導研究協議会参加校の取り組み等の情報提供を受け、本校の進学指導体制を改善する。
 - ③ 教科主任会を定例化し、新学習指導要領の各教科・科目の研究を通して、進学指導及び教科指導の充実を図る。
 - ④ 生徒に自身の探究活動を含めた 3 年間の記録を、Classi を通じてキャリア・パスポートに記録させ、振り返りのために活用するとともに、そのデータを総合型選抜/学校推薦型選抜出願に活用する。

目標 4 生活指導の充実：（4）規範意識の醸成と挨拶・社会貢献を通して地域からの信頼と支持を得るために

- 方策
- ① 規範意識の醸成と挨拶・社会貢献を通して地域からの信頼と支持を得るために、自主自律の精神の

涵養を図り、生徒が身なりを自分の主体的意志で改善できる学校を目指す。

- ② 体育祭、文化祭、合唱祭等の学校行事に主体的に取り組む経験を通じて、集団生活、社会生活を送るための規範意識の高揚と深化を図る。
- ③ 生徒会の更なる活性化、諸委員会の自律的実働化を高めるとともに、清掃、校内美化の自主・自発的な活動を推進する学校を目指す。
- ④ 保護者、家庭との連携体制を強化し、いじめゼロ、不登校ゼロ、特別指導ゼロ、遅刻ゼロの学校を目指す。

目標5 国際理解教育の推進：(3) 国際理解教育を通して、高い人間力を育成するために

- 方策
- ① 国際理解教育を通して、高い人間力を育成するために、国際交流リーディング校として、国際理解教育の充実に努め、生徒が地球的な視野と国際的な道徳観・倫理観を身に着けられるよう支援する。
 - ② オーストラリア・キラウィ高校及び台湾・台北市立大同高級中学校との姉妹校交流を、より一層安定的なものにするために、交流実施上の諸課題の解決を図る。
 - ③ 東京外語大学、専修大学等の留学生との交流など、校内における国際理解教育のための学校行事等を、より一層充実したものにするために、生徒が主体的に参加する運営方法について検討する。
 - ④ 国際交流委員や英語研究部などの生徒を中心に、生徒が主体的となる国際理解教育のための学校行事の機会を増やすために、東京観光財団と連携し、海外からの訪日修学旅行誘致に努める。

目標6 部活動の推進：(3) 文化・スポーツ教育を通して、高い人間力を育成するために

- 方策
- ① 文化・スポーツ教育を通して、高い人間力を育成するために、部活動加入を奨励し、部活動を通じてリーダーシップやチームワークの大切さを理解する心を醸成する。
 - ② 部活動中の事故（熱中症を含む）の未然防止に努めるとともに、各部活動の取り組みや実績等について、中学生、保護者や地域住民に積極的に情報発信し、理解啓発に努める。
 - ③ 学習と部活動の両立を促進するとともに、生徒、顧問の心身の健康を図るためスポーツ庁、文化庁、文部科学省及び東京都教育委員会のガイドラインに沿った休養日を適切に設定する。
 - ④ 近隣の小中学校等との交流や地域イベント、音楽祭等への積極的な参加を通じて部活動を通じた地域貢献に努める。

目標7 教育的諸課題への対応

- 方策
- ① 主権者教育を充実させ、生徒の理解啓発に努める。
 - ② 日本の伝統文化教育を推進するために、芸術鑑賞教室等を通して、生徒の興味関心を深める。
 - ③ オリンピック・パラリンピック教育を推進するために、東京都の作成するオリンピック関連教材を活用し、2021東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、教育の充実に努める。
 - ④ 特別支援教育を推進するために、教員、生徒、保護者のそれぞれに、特別支援教育に関する理解を深める取り組みを行い、理解啓発に努める。また実際に支援を要する生徒については、東京都のコミュニケーションアシスト講座等を活用し、必要なサポートを行う。
 - ⑤ 生命尊重の教育を推進するとともに、保護者との連携をより深め、生徒の事故防止に努める。
 - ⑥ 緊急時における「学びの保障」の観点から、デジタル技術の活用とその充実に努める。

目標8 開かれた学校運営

- 方策
- ① 外部評価を学校運営改善に還元する。
 - ② 東京都の「ライフ・ワーク・バランス」推進プランの理念に基づき、学校における働き方改革推進を進めるため、業務の効率化に努め、月当たりの超過勤務時間が80時間を超える教員をゼロにすることを当面の目標とする。
 - ③ 予算計画に基づいて、四半期ごとに執行状況を把握し、適正且つ有効に活用していく。
 - ④ 本校の取り組みを広く中学生、保護者に広報するために、近隣中学校、生徒が多数入学している町田市や世田谷区等の中学校及び学習塾等との連携を深めるとともに、ホームページ等を通じた情報発信をより効果的なものにしていく。

3 今年度の目標と方策

新型コロナウイルス感染症の拡大が続く中、新学期を迎えた今年度の学校教育について、生徒及び教職員の感染予防を最重点としつつ、教育水準を低下させないことを目標に、以下の方策を行う。

① (学習指導) 授業日の確保とクラウドサービスやオンライン教材を活用した教育の充実

- ア 高校3年間に、生徒が体系的かつ効果的な学習を行えるよう、各教科・科目において「シラバス」に基づく年間授業計画を4月に策定し、週ごとの指導計画に具体化して計画的に授業を展開する。
- イ 生徒が十分な授業時間の中で学習できるよう、概ね隔週で「土曜授業」を実施するなどして、授業の確保を図る。
- ウ 大学入学共通テスト等の分析・研究をさらに進め、その結果を1、2学年及び各教科で共有して、定期考査等に、新傾向の問題を出題するとともに、知識、技能だけではなく生徒の思考力・判断力・表現力やその土台となる読解力を伸ばす授業を行う。
- エ 英語教育推進校として、英語の4技能検定試験（GTEC）を実施して、生徒の現状を把握し、生徒の英語の4技能をバランスよく伸ばす授業を行う。
- オ 模擬試験の事前学習、事後学習にClassiの学習動画、Webテスト等を計画的に活用させ、模擬試験への事前・事後の十分な指導に努める。
- カ 総合的な探究の時間において生徒が自ら主体的に設定した課題について仮説を立て、検証する、仮説検証型の探究学習を大学等と連携しながら行う。
- キ 今後の授業実施制約に向け、Classi等のクラウドサービスを活用や、学校作成の教材の配信やオンライン教材の提示等を行なえるよう準備し、生徒の自宅学習への対応を図る。

② (進路指導) 大学入学共通テスト等への対応

- ア 生徒に、キャリア教育における各能力（基礎的・汎用的能力）を育成するため、「キャリア教育全体計画」を策定し、全教育活動において実施する。その一環として、進路講演会等の一層の充実を図り、志望大学や学部に応じた補講等の支援体制を整備して、総合的にキャリアプランニング能力を育成する。
- イ 生徒が自己の進路目標を早期に確立できるよう、体系的な進路面談計画を策定して各学年2回以上の面談を実施する。また、高校3年生では、三者面談を実施することで、家庭と連携して生徒への支援を効果的に行う。
- ウ 2回目となる大学入学共通テスト、総合型選抜／学校推薦型選抜等に対応するために、大学入試制度に関する情報を収集し、生徒や保護者に、時宜を逃さず提供していく。
- エ 計画的・効果的な夏期講習を早期に立案し、提示する。また、講習実施制約に向け、動画配信の対応を図る。
- オ 学力や進路志望の分析・検討会等を実施し、個々の進路目標の具体化と実現を図る。
- カ 進学指導研究協議会加盟校の進学指導に関する優れた取り組み事例を校内に導入する。

③ (生活指導) 学校行事計画の見直しと生徒のメンタル面のケアへの配慮

- ア 全教職員が、ぶれのない、統一的な視点に立った生活指導を行うために、生徒部と各学年が連携して生活指導を行う。
- イ 体育祭、文化祭、合唱祭等の学校行事を安定的かつ事故無く実施するために、体育祭等における競技中の安全対策や文化祭後の後夜祭の在り方などについて検討し、改善する。
- ウ 生徒会の更なる活性化、諸委員会の自律的実働化を高めるとともに、清掃、校内美化の自主・自発的な活動を推進するために、生徒の主体性を伸ばす指導を検討する。
- エ 盗難防止、交通ルール・情報モラル遵守、薬物濫用防止等の指導の徹底を図るため、セーフティ教室や学級・学年での指導を年間3回以上実施する。
- オ 保護者、家庭との連携体制を強化し、いじめゼロ、不登校ゼロ、特別指導ゼロ、遅刻ゼロの学校を目指す。
- カ 新型コロナウイルス感染症の校内における予防法の啓発を行うとともに、メンタル面に不安を感じている生徒へのケアに努める。

④ (国際理解教育) 国際交流の安定と継続・環境整備

- ア 国際交流リーディング校として、オーストラリア・キラウィ高校との姉妹校交流を、より一層安定的なも

のにすることを目標に、ホストファミリー反省会等の意見をもとに改善を行う。また、中止になった際の代替案を、東京観光財団等の外部機関と連携して検討する。

イ 姉妹校協定を締結した台湾の台北市立大同高級中学校との連携を維持・改善していくために、修学旅行での訪問時に、今後の方針を協議する。また、中止・延期になった際の代替え国内の修学旅行も視野に入れて、検討する。

ウ 東京外語大学、専修大学等の留学生との交流などを含めた本校の国際理解教育の伝統を安定、継続していくために、国際交流委員の活動をより活性化させる方法を検討する。

エ 総合的な探究の時間において、自ら主体的に設定した課題について仮説を立て、協働的な学びや世界の多様な人々と交流するフィールドワークを、台湾修学旅行を中心に実施する。

⑤ (特別活動、部活動) 部活動の安全かつ効率的な運営

ア 感染予防に努めながら順次部活動を再開し、各部活動は、スポーツ庁・文化庁・文部科学省及び東京都教育委員会が示すガイドラインに沿った活動計画を定め、安全な部活動運営を行う。

イ 部活動は、活動中の事故防止に努め、特に夏季の活動時の熱中症対策については、既に先進的な取り組みを行っている部活動の事例を共有し、熱中症予防に努める。

ウ 部活動顧問の配置については、次年度を見越して、部活動指導員を幅広く募り、特定の顧問に過重負担にならないように十分配慮する。

エ 各部活動の取り組みや実績等について、ホームページ等を通して中学生、保護者や地域住民に積極的に動画発信し、理解啓発に努める。

オ 地域や近隣の小中学校等との交流に積極的に取り組み、トライ&チャレンジ事業等を通じて、運動部、文化部ともに部活動を通じた地域貢献に努める。

⑥ (教育的諸課題への対応) その他の様々な教育課題への対応

ア 狛江市青年会議所等と連携し、主権者教育を計画的に実施して生徒の理解啓発を行うと同時に、生徒の公職選挙法違反等の未然防止に努める。

イ 芸術鑑賞教室の実施の可否を受け、日本の伝統文化教育を推進するために、生徒が日本の伝統文化に触れる機会を校内で設けていくことも視野に入れ検討する。

ウ オリピック・パラリンピック教育を推進し、レガシーとして長く継続していくために、ホームルームの時間等を活用し、生徒がパラリンピック種目を体験できる機会を設ける。

エ 特別支援教育を推進するために、教員、生徒、保護者のそれぞれに、特別支援教育に関する理解を深める取り組みを行い、理解啓発に努める。

オ 生命尊重教育の教育を推進するとともに、保護者との連携をより深め、生徒の事故防止に努める。

⑦ (学校運営) 安心・安全かつ安定的な学校経営

ア 校内における新型コロナウイルス感染症予防対策について、逐次、生徒及び保護者や地域に情報を公開し、安心・安全な学校経営の取り組みを内外に発信していく。

イ 学校における働き方改革推進を進めるため、業務の効率化に努め、月の超過勤務時間が80時間を超える教員をゼロにすることを当面の目標に、会議時間の縮減等に取り組む。

ウ 予算計画に基づいて、四半期ごとに執行状況を把握し、適正な予算執行を行い、自律経営推進予算を無駄なく活用する。

エ 適正な入選倍率を確保しつつ、本校の特色を理解してもらうための募集広報計画を立案・実施する。具体的には、生徒が多数入学する地域(世田谷区、町田市等)の中学校、学習塾を中心とした募集広報活動や学校案内の見直し、塾対象説明会の充実などを検討・実施する。

オ 感染症予防の取り組み

- ・都の学校健康推進課、地域の保健所、学校医等からの指導助言に基づき、校内で3密(密閉・密集・密接)な状況を作らず、クラスター発生を防止する対策を行う。
- ・生徒の登校については、時差登校を実施することで公共交通機関の混雑を避けるなど、年間を通じて生徒の感染予防策を行っていく。
- ・授業実施においては、教室環境(換気、消毒、ソーシャルディスタンスへの配慮等)を整える。実技指導については、年間授業計画を見直し、指導の順序を変更する等の工夫を行う。

4 重点目標と方策

- ① 本校を第一志望とする生徒で、適切な入選倍率（一次、分割前期）を確保する。
 - ・一次、分割前期入選で、1.6倍程度の倍率を確保することを目標に、募集広報活動を充実させる。
- ② 生徒が、本校に入学してよかったと思える質の高い教育と満足度の高い学校生活を提供する。
 - ・生徒の授業満足度80%以上を達成することを目標に、授業改善に取り組む。
 - ・生徒の学校満足度（肯定的）90%以上を達成することを目標に、学校生活等を充実させる。
- ③ 生徒の学力を向上と進路実現。
 - ・各学期（7月、11月、1月）に実施する模擬試験における、三教科・五教科の平均点偏差値の推移を通じて学力の伸びを把握し、1月の数値が、7月比でプラスになることを目標に、学習指導を充実させる。
 - ・理数教育の充実を図ることで、生徒に探究心を身に付けさせ、進路実現に役立たせる。
 - ・難関国公立大学3名、国公立大学への現役合格者を15名以上、難関私立大学(早稲田大学、慶応義塾大学、上智大学及び東京理科大学)15名以上、GMARCHを170名以上とする。
- ④ 教職員の資質・能力の向上。
 - ・情報セキュリティや教育相談等の職務課題に関する研修を年間5回程度実施するとともに、OJTを推進し、教職員の資質・能力の一層の向上を図りサービス事故を防止する。